

---

# バカとテストと召喚獣 ~ 幼馴染はロリータです ~

俊斗蛇駆

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカとテストと召喚獣〜幼馴染はロリータです〜

### 【Nコード】

N6547Y

### 【作者名】

俊斗蛇駆

### 【あらすじ】

中二の時に海外に行ってしまった吉井明久の幼馴染、佐藤悠美が文月学園Fクラスに転校してきた！バカな彼ら織り成すおバカラブコメディ！

明久×オリ？！かもしれない

## プロローグ

「え・・・転校？」

「・・・うん」

中学2年生の夏休みそれは突然訪れた。親同士が幼馴染みなのもあって小さい頃から兄弟のような存在だった悠美が突然転校することになった。

「何で急に転校することになったのさ?!」

「あのね、親の仕事の都合で・・・。私も一昨日言われたばっかで・・・。」

「そんな・・・。」

「あつ、でも高校2年生くらいになったらまた戻ってくるから」

そんな・・・これから僕はどうやって宿題をやればいいんだ・・・一人でやったら一問もできないってのに

「ねえ、アキ兄。」

「な、なにさ!悠美」

「私がいなくなったら宿題出来ないとか考えてない？」

「うっっ!そ、それは・・・」

くそ!こんだけ付き合いが長いと表情だけで考えが読まれてしまう!

「それでね、イギリスに転校するんだけど・・・最後にお問い合わせがあるの」

「何でも言いなさい!僕が出来るだけのことはするよ!」

そういって僕は胸を張り自信満々に言った

「あ、あのね。その・・・アキ兄に・・・だ、抱いてほしいんだけど／＼／」

「ええええええええ！？い、いくら僕らが長い付き合いって言うてもさすがにそれは・・・僕らも年頃だし／＼／」

「いや・・・なの？」

う、上目遣いだと！これは破壊力抜群だ！笑って見送ろうと思ったのにその前に僕の理性が崩壊してしまう・・・抱こうか抱くまいか迷っていたら・・・

「あ、もう時間だ！」

「え！？もう行くの」

「うん・・・じゃね、アキ兄」

このまま4年間も会えない幼馴染を見送っていいのか？  
・・・いや、駄目だ！

悠美が部屋から出ていく前に・・・

「悠美！」

ガバツ

「え・・・」

僕は悠美を強く抱きしめた・・・

「いつてらっしやい、悠美」

「またね、アキ兄」

そして僕は悠美を放して玄関で見送った・・・

「アキ君、気を落とさずに」

「うん、大丈夫だよ。姉さん」

「そうですか。ではアキ君。さっき悠美さんを抱きしめたことについて言い訳はありますか？」

「えっ！い、いや！あれは悠美がたのん・・・ぎゃあああああああああああ！！！！」

こうして僕の幼馴染は転校していった・・・

## プロローグ（後書き）

はじめまして！初投稿です！

つたない文章ではありますが良かったら今後とも読んでください！

## ヒロイン設定

名前 佐藤悠美 さとうゆうみ

身長 132?

体重 トップシーレット

性格 天然 ドジ ふんわりした感じ

趣味 お菓子を食えること 明久と一緒にいること

特技 料理 明久が考えていることなら表情だけでわかる

好きなもの 明久 甘いもの 友人

嫌いなもの 明久をいじめる人 辛いもの 苦いもの

外見 イン ツクスさんの的な感じ 原作9・5巻の美波的なツイン

テール しばってない時 は腰くらいまであって先の方が癖っ毛

運動は苦手で、体力はあまりない

## 召喚獣

服装 白のスクール水着にセーラー服の上だけ

武器 ステッキ

武器は通常時は鈍器として使用してるが、攻撃力はあまりない  
特殊能力はなぜか2つあります。

1つは、相手の動きを止める。このとき3秒に1点減点。発動する  
際に「ストップ!」と言う

2つめは、ステッキの先から光線を放つ。この際「ビーム!」と言  
う。点数の4分の1を消費する。

能力は2つ同時の発動も可能だが点数の4分の3消費してしまう。

## ヒロイン設定（後書き）

こんな感じで行きたいと思います。  
性格をうまく表現できないかもしれないですがその時はごめんな  
い。

果たして！私はこの話を最後まで書き終えることが出来るのか！！？  
以上、峻斗蛇駆でした！



## 第1話

文月学園の前にある車が1台止まった

「ちゃんとクラスで友達作るんだぞ」

「もおう。そんな子供じゃないよ！じゃあね」

そして車は去って行った……。

「ここが文月学園か……楽しみ？」

「おい明久。この前の島田と姫路とのデートどうだった？」

「ちよっ！雄二そんな大きな声で言ったら……」

『異端者には……制裁をおおおおおおおおおお  
！……！』

「ぎゃあああああああああ！！！」

そんな叫び声をあげて僕はつかまってしまった！くそ！出遅れたか！

『男とは愛を捨て哀に生きるもの！吉井明久には……死の制裁  
をおおおおおお！！！！』

くそ！万事休すか！？

「お前ら！！何をしとるか！！早く席に着け！！！」

そこに現れた僕の救世主は、肌が浅黒い、トリアスロンが趣味という筋骨隆々の生徒指導の教師西村宗一こと鉄人が勢いよく扉を開けた

「突然なんだが、転校生を紹介する」

『うおおおおおおお！』

『女子ですか！？』

『かわいかったら結婚してくれ！！』

誰だ！顔も見てないのに結婚とか言ったやつは……！  
それにしても珍しいな……こんな時期に転校なんて

「入っていいぞ」

教室に入ってきたのは……小学生のような女の子だった……  
・あれ？どっかで見えたことあるような……

「え、えと……今日からこのクラスにお世話になります！さ、佐藤悠美です。よろしくです」

『付きあつて下さい！！！！』

『悠美ちゃー！！！！ん！！！！』

『マイエンジエー！！！！！！！！！！ル！！！！！！！！！！』

くっ！！！！

この僕の理性が崩壊しそうになる殺人スマイルはどこか身に覚えが……

「あ。ちなみに将来の夢は・・・」

どうかで・・・

「吉井明久のお嫁さんになることですか？」

・・・。。。。やっと思いついた

『裏切り者には・・・。。死をおおおおおおおお！！！！！！』

くそ！逃げ切れるか！？僕が走りだそうとした瞬間・・・

「み、みなさん！アキ兄をいじめないでください！」  
『YES！マイエンジェル！！！！』

良かった・・・。悠美のおかげで助かった・・・。  
それにしてもとうとう悠美が帰ってきた・・・これから楽しく、  
いや・・・大変になりそうだ・・・

## 第1話（後書き）

どうも！峻斗蛇駆です！

いやホント！小説って難しいです……。でも頑張りたいと思います。気に入っていただけたら今後ともよろしくお願いします！

## 第2話

悠美の自己紹介も終わり、僕の前の席に座った

「アキ兄！久しぶりだね。ちゃんと高2に帰ってきたでしょ？」

「うん。いや、僕も高2になってからさ、悠美が早く帰ってこないかなって思ってたさ。ホントに嬉しいよ！」

「何だ明久？幼馴染みか何かか？」

「うん。中2の時きゆうに転校しちゃってたさ」

「ほ。まあこいつはさておいて、俺は坂本雄二だ。よろしくな」

「よろしく」

「ちよつと雄二！雄二が効いてきたから答えたんじゃないか！」

くそ！雄二のやつ！何でいつも僕を目の敵にするのさ。

「わしは木の子で秀吉じゃ。演劇部に所属しておる。特技というほどもないが声真似が得意じゃ。後それと・・・」

は。相変わらず秀吉は可愛いな。やっぱり僕の天使は秀吉だよ。

「アキ兄。木下君は男の子だよ。」

「な、何じゃと！わしを男だと分かったのはお主が初めてじゃ！」

「??だつてどこからどう見ても男の子でしょ？」

「佐藤！お主は良い奴じゃ！」

そう言つて、涙を流しながら悠美の手を強く握った。

「感動してるとこ悪いが、ムツツリーニが話したがってるんだが・・・」

僕の隣にはいつの間にかムツツリーニが座っていた。

「……………土屋康太。」

相変わらずあんまりしゃべらないな。

「よろしく、土屋君。あつ！あなたは姫路さんだよな？」

「はい。よろしくお願いします」

「姫路のことは知ってるのか？」

「うん。小学校が一緒だったから」

「でもあまり話したことはなかったですけど……………」

「これでとりあえず皆自己紹介終わった……………」

はっ！何やら後ろの方からダダならぬ殺気が！

「アキ……………。うちのこと忘れてない……………！」

「わわわ、忘れてないよ！やだな、早とぎやああああ！僕の背骨がああああ……………！」

ああ、悠美に4年ぶりに再会してほんの数分で僕の人生終了か……………。  
悠美とあんなことやこんなことしたかったな……………。って！何  
考えてんだ！

「とまあ、あいつらはほつといてこんな連中ばっかしかいないんだ  
がよろしくたのむ」

「楽しいクラスなんだね。楽しみ！」

そう言って悠美は可愛いく笑った。やっぱり悠美は可愛いな

「ちょっと！ウチがまだよ！ウチは島田美波よ。よろしくね」  
「よろしく」

皆の自己紹介が終わったころ・・・

「いいか！このクラスはこの前の試召戦争で負けて今はミカン箱の状態だ！今度の試召戦争で勝つために勉強に励めよ！では1時間目の授業の準備をしろ！」

そう言つて鉄人は教室から出て行つた。

悠美と久々に昼飯でも食べようかな

「ねえ悠美。昼休み一緒に昼飯食べない？」

「アキ兄と？！うん！食べる！」

くうく！この笑顔見せられたら思わず抱きしめたくくなるよ！

「あ、明久君！なんでしたら私、お弁当作ってきたんですよ」

くっ！姫路さんのお弁当があつたか！一緒に食べるとなれば悠美も食べる可能性が！でも僕も命は捨てたくないし・・・そうだ！雄二たちも誘えば・・・

「ねえ！ゆう・・・」

「そうか姫路！俺らは別のもん食うから弁当は全部明久に・・・」

「あつ、ご心配なく。皆さんの分もありますから。」（ニコツ）

「「いやだああああ！死にたくないいいいいいい！！！」」

こうして悠美との久しぶりのお昼は殺人料理がならぶこととなつた。

•  
•



## 第2話（後書き）

お久しぶりです！

テストが今度あるんでこれがテスト前最後の更新かな？

でも、なるべく更新したいです！

峻斗蛇駆でした！

### 第3話

そんなこんなで僕たちは、屋上に来ていた。

姫路さんの料理がある以上、誰も無事では済まないだろう……。何とかこの状況を打破しなければ……。！

(ど、どうするのさ?!雄二!)

(そんなこと俺に聞くな!こんな量4人で食べるわけねえーだろ?!)

(だが量に関係なく、1品食べただけで確実にあの世行きじゃ……。)

(……。全部食べたら蘇生も難しい)

確かに!仕方ないここは誰かが犠牲にならなければ……。！

「どうしたんですか?たくさん食べてくださいね!」

「あっ!姫路さん!あんなところにUFOが!(棒読み)」

「え!ほ、本当ですか?!」

「ホントに?!アキ?」

「どこにあるの?アキ兄!」

よし!かかった!後はパンチを雄二の鳩尾につ!

(そうはいかないぞ明久!)

な、何?!読まれていた?くそ!

(死ぬのはお前だ!)ドスッ

(うっ!)

その時、雄二の攻撃が僕の腹にクリーンヒットした

(さあ、食べ！明久！)

(もがががっ！)

う、やばい。意識がもろろつとしてきた……………。

「明久君、UFOなんて……………あら？明久君寝ちゃったんですか？

「ああ。うまい、うまい言ってほとんど1人でくっちゃまった」

「ふう〜。良かったです。今日は特に美味しくしましたから！」

「あ、ああ。そいつは良かった」

「アキ兄寝ちゃったの？折角お弁当作ってきたのにな〜……………」

「それホント？！！！悠美！！！」

悠美の料理が食べられるならどんな状況でも食べなければ！

「うおっ！明久！復活早すぎるだろ！」

「この回復力はすごすぎじゃ！」

「……………あり得ない！」

「良かった！アキ兄に食べてもらうためにがんばったんだよ！」

悠美が、僕のために頑張ってくれたなんて……………！なんて嬉しいんだ！

「じゃあ、早速もらっよう！(ぽくっ)」

こ、これは……………！！

「最高においしいよ！悠美！」

「ほ、本当?!よかった」

「へえ〜どれどれ」

僕に続いて3人も食べた

「確かに・・・！これはうまいな！」

「ほ、本当じゃ！」

「・・・嫁がせても恥ずかしくない！」

「そ、そんなことないよ」

悠美は顔を赤らめて否定した

そんな恥ずかしがる必要はないのに。すごくおいしいんだから。

こうして悠美にお弁当を皆で食べて、お昼休みは終わった。

### 第3話（後書き）

どうも！

前の更新の後、折角何でいろいろと調べてましたら、これに似たバカテス二次創作がありました。知らずとはいえ似てしまいましたのでお詫び申し上げます。

ご希望などございましたら、感想に書いておいてください。  
俊斗蛇駆でした！

## 第4話

その日の帰り道……

「アキ兄と一緒に帰れてうれしいなあ」

「はははっ、僕も嬉しいよ」

僕たちは実に4年ぶり位に悠美と一緒に帰っていた……

「アーーキ兄？」

そう言っつて悠美は、僕の腕に抱きついてきた……っつて、ええええええええええ？！

「ちょ、ちょっと！？悠美！？何で抱きついてくるのさ？！」

「だってアキ兄と一緒に帰れて嬉しいんだもん」

「で、でも……」

正直言っつて、悠美から抱きつかれていることで周りの人からの視線が……

「アキ兄は私に抱きつかれてると……嫌？」

そう言っつて悠美は上目遣い+涙目（ここ重要！）でそう言っつてきた  
うっ……そうなる目で見られたらいやなんて言えないじゃないか……

「べ、別に構わないよ・・・悠美なら・・・」

「ありがとうアキ兄」

そう言っただけ嬉しそうにもっと体をくっつけてきた・・・ちょっとお  
おおお！！

悠美の胸の感触がああああああ！！・・・あんまりないけ  
ど・・・

「アキ兄ったら！そんなに胸がおつき方がいいの？」

うっ！やっぱり悠美には僕の心が読まれてしまうのか！！

「い、いや！そんなことないよ・・・好きな人なら胸なんて関係  
ないよ！」

「え・・・それって・・・」

R u u u u u !

「あつ、ごめん。ちょっと出てくるね」

『お父さん。どうしたの？うん、うん。えっ？！うん、でも・・・  
』

どうしたんだろう？何かすごい慌てるけど・・・

「アキにい～～～～」

ユニが手招きしている。どうしたんだろ？  
そして僕は、悠美のそこへ向かった

「あのねアキ兄。お父さんがアキ兄に代わってほしいって……」  
悠美のお父さん？何の話だろ？

『明久君かい？』

「はい……そうですけど……」

『久しぶりだな……実は仕事の都合で私たちがまた海外に行くことになってしまって……そこで折り入って相談何だけど……』

僕に相談？何なんだろ？

『可愛い一人娘に一人暮らしはさせたくないんだよだから……明久君の家に居させてやってくれないか？』

え？それって……

「同棲って……ことですか？」

『まあそういうことだね。頼めるかい？』

「僕は良いですけど……」

『そうか。ありがとう！では、頼んだよ！』ピッ

そう言い残して切れてしまった……

「アキ兄……お父さん……なんて言ってた？」

「えっ……と……」

「？」

言い出しにくいな



「えつとね・・・僕と・・・悠美が、ど、同棲しろって・・・  
／／／」

「アキ兄と私がど、同棲？／／／」

悠美は気が進まない様子だ・・・それもそうだ。僕は悠美のこと好きだけど悠美は僕のこと好きじゃないし・・・好きでもない異性と同棲するなんて・・・

「嬉しい！アキ兄と一緒に暮らせるなんて・・・夢みたい！」

そう言って悠美は僕に勢いよく抱きついてきた

こうして大好きな彼女との・・・同棲生活が幕を開けたのだった・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6547y/>

---

バカとテストと召喚獣～幼馴染はロリータです～

2011年12月11日11時52分発行